

マンガとは

単純・軽妙な手法で描かれた、滑稽と誇張を主とする絵。

特に、社会批評・諷刺を主眼とした戯画。ポンチ絵

絵を連ね、多くはせりふを添えて表現した物語。コミック

出典：広辞苑（電子辞書）「まんが」

滑稽または風刺的な目的で描かれる絵。コミックスの同義語。単純な笑いを意図したものから、政治的、社会的なものまで多くの形式がある。印刷術の発展とともに急速に発達し、17世紀頃からフランスではカロラの版画によるまんがが注目され、19世紀にはドーミエの風刺的芸術作品が生まれた。

日本では漫画の単行本を特にコミックスを呼ぶことが多く、現在では全出版物の3割を占めるほどに発達、100万から200万部の発行部数をもつものがある。

出典：ブリタニカ国際大百科事典（電子辞書）「漫画」

「漫画」というのはもともとの中国語では表現のジャンル名ではなく、ヘラサギの別名でした。その場合、日本語では「まんかく」と読むのですが、この漫画という鳥は、終日飽くことなく小魚を渉獵するということから、江戸時代には「飽くことなく渉獵(しょうりょう)する」の意味で「漫画」を用いた『漫画随筆』という書物があり、『北斎漫画』の「漫画」もあらゆる題材をあらゆるスタイルで描いて網羅するという意味だったとする説があります。

出典：Meiji.net「#2 漫画の始まりはいつ？」2018年6月1日

漫画の歴史

日本

『鳥獣人物戯画』『百鬼夜行絵巻』などの古代・中世戯画作品は、肉筆で描かれ、一部の人々の鑑賞の対象になっていた。やがて漫画は版画で表現するという複製美術となり、大衆の享受するものになった。その出発点は江戸中期に大阪で出された鳥羽絵本。漫画の元祖といわれていた鳥羽僧正(とばそうじょう)の名を冠した鳥羽絵は、誇張や省略の技法を使った世界的にみてかなり早い時代に生み出された木版漫画本だった。

江戸後期には『北斎(ほくさい)漫画』『漫画百女(ひやくじょ)』といった版本が出るが、ここで使われた「漫画」は従来からあった「漫筆」から派生した言葉で、今日の「スケッチ」のような意味であった。このほか江戸時代を通じて使われた漫画を意味することばとしては、文字絵、もぬけ絵、一筆絵など100種類以上ある。

日本の近代漫画は、ヨーロッパの影響を受けてスタートする。1862年に横浜居留地でイギ

リス人チャールズ・ワーグマンによって創刊された漫画雑誌『ジャパン・パンチ』の影響を受けて、幕末の日本の新聞に漫画が掲載されるようになる。1874年（明治7）には仮名垣魯文（かながきろぶん）・河鍋暁斎（かわなべきょうさい）によって『ジャパン・パンチ』をそっくりまねた『絵新聞日本地（にっぽんち）』が刊行される。日本最初の漫画雑誌（木版刷）。文明開化風俗が絶好の漫画テーマになった。

西洋

先史時代から始まる絵画の歴史の中で、その出発点となっている絵画類は戯画的描法をとっているから、戯画と一般絵画との区別はつけにくい。呪術的あるいは宗教的意味で描かれた絵画以外の絵、例えば寓意画のなかに戯画の出発点があるように思える。古代エジプトの動物戯画などがその例。

中国

中国において記録のうえで漫画が登場した最初は11世紀（宋代）の石恪（せきかく）筆『玉皇朝会図』の画中に描かれた風刺画だという。しかし、近代に至るまでは日本に比して漫画や風刺画の作品は少なく、傑出した漫画家や漫画作品が出ていない。1875年ごろから『香港パンチ』などの漫画雑誌が登場するが、「漫画」は大正時代に日本から輸入された言葉であった。

出典：ニッポニカ（電子辞書）「漫画」

島田の考え

単純な笑いを意図したものから、政治的、社会的なものがあり、絵を連ね、多くはせりふを添えて表現した物語。